



# ふえろ〜

## イチネングループ

### 総合情報誌

# 第91号

2011年4月1日発行(季刊)

編集

株式会社イチネンホールディングス

社長室

http://www.ichinenhd.co.jp



## 「カーシェアリング・ワンで イチバンスマートなカーライフを」



株式会社イチネンカーシェアリング  
代表取締役社長 堀 義朋

「ふえろ〜」ご愛読の皆様におかれましては、益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。

1月の会社設立よりグループ各社の皆様には多大なご支援・ご協力を賜り社員一同心より感謝申し上げます。  
2011年4月1日、新たにイチネングループの一員として、株式会社イチネンカーシェアリングが本格的に事業を開始いたしました。今回は事業開始にあたり私どもを取巻く環境、当社の基本方針についてご説明させていただきます。

### カーシェアリングとは？

カーシェアリングとは、1台の自動車を持定の会員が共同で利用する(シェアする)自動車の利用形態です。  
私たちの身近にある交通手段である自動車。その利用形態は買取り・リース・レンタル等ライフスタイルや事業に合わせ多岐にわたっています。法人企業では買取りやリース、レンタカーという選択で経費を抑え、効率を追求してきました。近年の車両の小型化やハイブリットという考え方もその一環です。また個人でも所有を中心に個人リース・レンタカーという考え方が主だったものでした。

しかし、ここ数年、景気の減退、所得の低下に加え、環境問題がクローズアップされており、こうした背景から、これからの自動車利用は劇的な変化を迎えることが予想されます。そのキーワードとなるのは、「短時間」、「短距離」、そして「無駄なく」です。  
カーシェアリングは、まさにこの時代の流れにマッチした新しい自動車の利用形態なのです。

### カーシェアリングのメリット

カーシェアリングのメリットは次のようなものです。

1. 自動車保有コストの圧縮  
1台の自動車を数人の会員で共有することによって、車両購入費、維持費、駐車場料金などの固定経費の負担額を圧縮。また、課金の単位時間が細かく設定(15分単位)されているため、利用料金の無駄が少なくなります。  
一般的には、通勤や遠方へのレジャーに使うことが多くなければ、ほとんどの場合、年間の走行距離は10,000Km以下になると言われており、当社の試算では、この程度の利用頻度だとカーシェアリングの方がお得になります。
2. 高い利便性  
GPS車載機器、インターネット予約システムなど、IT技術駆使することによって、予約から貸し出し・返却、代金決済までの煩雑な手続きがありません。
3. 環境への貢献  
保有台数の削減のほか、自動車利用に対する意識が変わり、自動車と公共交通機関、あるいは自転車などを組み合わせたことにより、CO2、NOx排出量の削減につながります。
4. 運転者のモラルの向上  
会員による「共同利用」という意識から、自動車を大切に使い、安全運転を心がけるようになります。

### さまざまな導入シーン

次にカーシェアリングの具体的な導入事例をご紹介します。  
1. 社用車の新たな保有形態として  
社有、リース、レンタルに次ぐ新たな社用車の保有形態として、カーシェアリングを導入。社員の自動車使用のニーズ

にこらえつつ、必要に応じて使った分だけのコストを負担することで、企業の車両コストを最適化します。

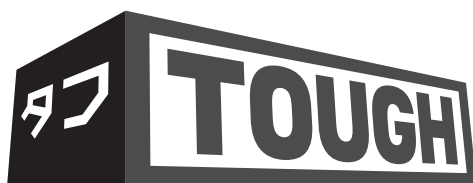
2. 集合住宅の付加価値アップサービスとして  
分譲・賃貸マンション、社員寮などの集合住宅の付加価値サービスとして、カーシェアリングを標準設定。駐車場不足を解消すると同時に、入居者の満足度を向上させます。主婦の方中心の「セカンド・カー」的な利用も期待できます。

3. 大学・専門学校生の「脚」として  
自動車を持たない大学や専門学校に通う生徒たち向けに、学校の駐車場や近隣の駐車場をステーションとして、学生専用のカーシェアリングを展開。夜型の生活スタイル、対面販売を敬遠しがちな若者層には、ITを駆使し無人化・24時間貸し出し可能なカーシェアリングは最適です。

4. 地域社会の便利でエコなモビリティとして  
例えば、役所・図書館・病院などの公共施設、コンビニ・商店街などの商業施設にEVカーシェアリングを導入。便利で環境に優しいモビリティとして、地域社会に貢献します。  
5. 駐車場の有効活用策として  
稼働率の低い時間貸し駐車場を、月極契約でカーシェアステーションとして提供することで、収益向上を図ります。

### 当社の基本方針

当社は「カーシェアリング・ワン」をブランド名とし、次のような基本方針を掲げております。  
・カーシェアリング業界で「オンリーワン」の存在になる(Carsharing 1)  
・自動車使用方法のポータルサイトを組み替える(Mobility Recombination)  
・5年後にトップグループに並ぶ  
・Carsharing 1(カーシェアリング・ワン)ブランドの浸透を図る  
日本では法整備や行政の取り組みなど、カーシェアリング先進国と比べ、まだまだ進んでいないところはありますが、今後近い将来必ずカーシェアリングという利用形態は浸透していくと考えております。  
私たちは「カーシェアリング・ワン」でイチバンスマートなカーライフを合言葉に、短距離・短時間の利用を促進すること、カーライフの最適化、コスト削減、環境への貢献のお手伝いをすることが使命であると考えております。  
最後に「ふえろ〜」ご愛読の皆様には更なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



タフな安心を、あなたに。

あいおいニッセイ同和損保

MS&AD INSURANCE GROUP

# IFRSプロジェクトの発足について

(株)イチネンホールディングス  
経理財務部 部長 村中 正

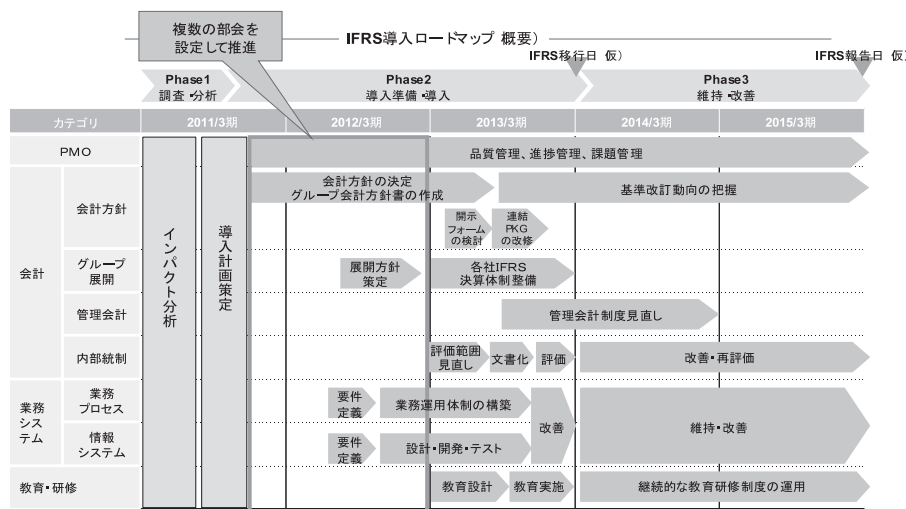
現在、当社グループでは国際財務報告基準（以下、IFRS）の適用に対応するための準備作業を進めています。IFRSとはロンドンに本拠を置く国際会計基準審議会（IASB）が作成している会計基準であり、経済のグローバル化を背景にこれまで世界各国が個別に作成していた会計基準を統一しようとする機運が強まってきたことに対応して作成されたものです。2005年からEU域内の上場企業に強制適用されたことを契機として急速に普及し、現在では主要国の中ではアメリカ及び日本を除くほとんどすべての国々が採用又は採用を決定している状況にあります。日本は2012年にIFRSを採用するかどうかの判断を行うとし、採用する場合の適用時期は2015年か2016年とすると表明しています。

IFRSの特徴は「原則主義」「公正価値」「資産・負債アプローチ」という形で表現されることがありますが、グローバルな投資を行う投資家に対して比較透明性を確保することを狙いとしていることから、現在の日本基準とは多くの相違点があり、IFRSが適用された場合の当社グループに与える影響も非常に大きなものになると懸念されています。それは会計の話

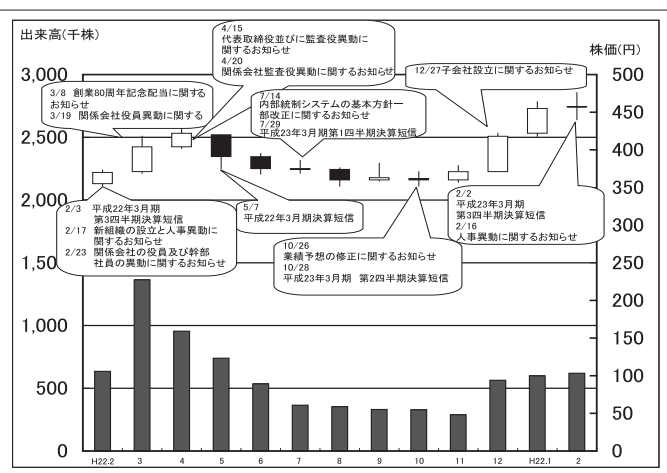
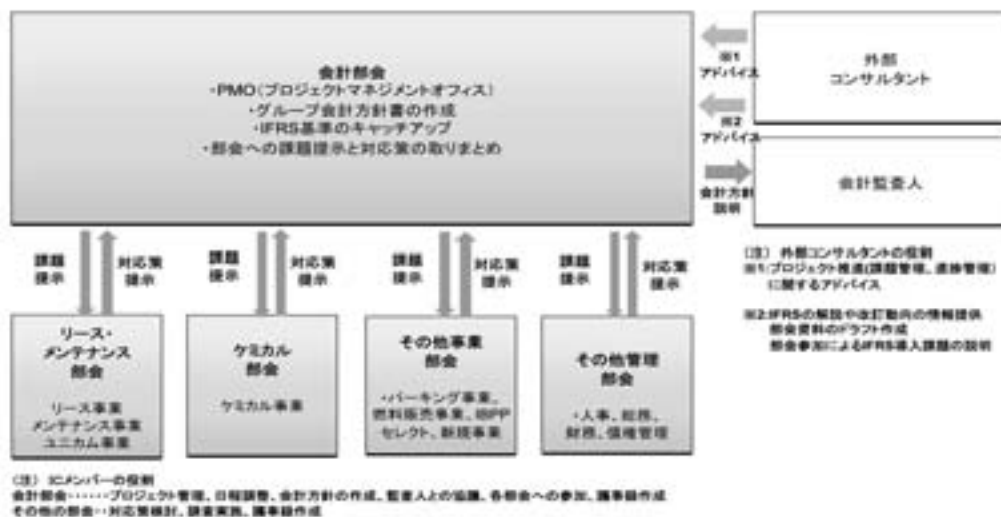
には留まらず、業務プロセスや情報システムにも大きな影響を及ぼすと考えられます。

当社グループでは、2010年4月から12月にかけてイチネンホールディングスの経理財務部が中心となり、トーマツコンサルティング及び有限責任監査法人トーマツの協力をいただき、IFRSが適用された場合の影響度調査を行いました。今後は、グループ各社の事業に関わる課題についての確認や業務プロセス・情報システムの見直しを行っていく必要があるため、今般グループ全社プロジェクトとして「IFRSプロジェクト」を発足させることとなりました。プロジェクトでは、事業ごとに専門部会を設ける形で検討を進めていく予定です。日々の業務で多忙と思いますが、プロジェクトへのご協力をよろしく願っています。

IFRS導入目標ロードマップ  
2015年3月期を強制適用日と仮定して、イチネングループにおけるIFRS導入ロードマップを作成しています。



## プロジェクト体制



株価チャート

プレスリリース

2010年  
12/27 子会社設立に関するお知らせ

2011年  
2/2 平成23年3月期 第3四半期決算短信

2/16 人事異動に関するお知らせ



# 「第12回中国車用品及び車改装展」が上海で開催

株式会社タイホーコーザイ 営業本部 海外事業部 上海駐在員事務所代表 川端 伸明

グループ各社は皆様、はじめまして。(株)タイホーコーザイ・海外事業部 上海事務所の川端です。宜しくお願い致します。

タイホーコーザイ上海事務所は、急成長を遂げつつあり、また一方で環境問題が深刻化する中国において、当社省エネ環境対応部品並びに自動車用ケミカルの販売方法の構築を目的に、2008年4月に開設致しました。以来、中国人スタッフを含め少数人数での運営ですが、イチネングループの成長戦略としての海外拠点となることを目標に日々の業務に取り組んでおります。

さて、世界第2位の経済大国となった中国の勢いは、モーターゼーションの旋風を引き起こしています。中国自動車工業協会は、2011年1月の中国国内新車販売台数が189万4400台と発表しました。これは米国の同月の販売台数(約82万台)の2倍以上です。また、2010年の中国新車販売台数は1800万台を突破し、2年連続で米国の上回り世界一となりました。私は当地に駐在して3年が経とうとしていますが、年々の経済成長に伴う中国の消費と所得の拡大、特に驚異的に進むマイカー普及率には驚かされるばかりです。マイカーの普及は都市圏の富裕層はもとより、地方を含む中流階級へと加速的に進んでいます。当社におきましても、世界が注目するこのマーケットを開拓すべく、日本国内での実績、長年培った経験とノウハウを基に、成長著しい中国カーケミカル市場への本格参入を開始しました。今回は、ブランド知名度の向上を目的としたプロモーション活動の一環として、2月25日(金)27日(日)に北京市の中国国際展覧中心(新館)で開催された自動車用品関係の展示会「第12届中国汽车用品暨改装汽车展览会」に現地代理店と共同で出展を致しましたので、展示会風景、当社出展ブースの写真と添えて、模様を報告させていただきます。



この展示会にはカーケミカル以外にも、カーナビ、ホイール、オイル等車本体以外の車用品を扱う世界中のメーカーが一堂に会する大規模な展示会

です。

今年も外資企業を含む約3000社が出展し、あるいはの雪模様の天気にも拘らず、期間合計の入場者数は15万人を超えたと主催者発表がありました。同業のカーケミカル用品メーカーにおいても、日本、ドイツ、アメリカのメーカーが多数出展しており、各社のブースを一見ただけで、中国市場への力の入れようが見て取れました。一方で、外資を迎え撃つ中国メーカーが目移しますと、新規メーカーが続々と参入し、安価で多数の品揃えをしており、各社のビジネスチャンスを見出しているの動きを実感しました。

当社の展示品は、高級車を対象としたカービューティーンショップや、輸入高級車ディーラー等の車美容のプロ向けの「アリストクラス」ブランドケミカルと、一般消費者をターゲットとした「日本市場での売れ筋品である『クリンビュート』、『ノータッチ』に現地ニーズを加味して開発しました。『FAIHOKOHZAI大鳳』ブランドの5品種を出品致しました。

今現在「FAIHOKOHZAI大鳳」ブランド品は、昨春秋に中国全国に40店舗以上を展開する独系大手スーパーのメトロ社への納入を皮切りに、その後も順次製品ラインナップを増やしつつ、全国の小売店へ展開して参ります。

また、当社の出展ブースにも多くのお客様がお見えになり、品質の良さに多くの賞賛の声を頂きました。良い物を如何に中国のお客様に購入いただくか、今後は更なる価格戦略と、プロモーション活動に加え、中国独特のニーズとアイデアを取り入れた商品企画が、重要な課題であると再認識しました。

大鳳工材(タイホーコーザイ)を、中国でのトップブランドに育て、ひとりでも多くの中国の方のカーライフ向上に寄与したい！

その情熱もって海外事業部員一同取り組む所存です。

平素から当社の海外事業にご支援戴いております全ての皆様にご心より感謝申し上げますと共に、今後とも倍旧のご厚情、ご指導を賜りたく切にお願い申し上げます。



# イチネングループの社有車に電気自動車を導入

株式会社イチネン 企画戦略室 課長 春宮 久範

2009年7月三菱自動車のiMIEVの発売を皮切りに自動車業界を中心にTVや新聞紙上を賑わしている電気自動車。この度当社では2011年1月、大阪本社に電気自動車「光岡Like(ライク)」を導入致しました。この「Like」はイチネンホールディングスで所有しておりますので、イチネン、イチネンパーキング、イチネンBPプラネット、野村オートリースの営業部門、サービス部門を中心に、まずは自ら電気自動車を体感すること、お取引先様へのデモなどに活用することを目的としております。

既にご存知の事と思いますが、新興国を中心として世界の自動車保有台数が増加する中、CO2問題を抱える世界は原油以外の燃料が恒常的に必要となっております。また、世界的に注目されている次世代送電網「スマートグリッド」においても電気自動車が一躍を担える事ができ、自動車業界のみならず幅広く産業界の注目を集めております。

しかしながら現在の電気自動車は、航続距離が約150km、価格も高価、急速充電設備のインフラも充分とは言えず、本格的な普及には課題が多いのも事実です。その様な中、国は普及に向けて積極支援を行っております。現在17都府県で「EV・PHVタウン構想」として低炭素社会づくりのために、電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド自動車(PHV)の本格普及に向けた実証実験のためのモデル事業を産官学連携で行っており、また、国内で販売される新車乗用車に占める次世代自動車(電気・ハイブリッド・プラグインハイブリッド・電気・ハイブリッド・燃料電池)の割合を、2020年に20%、50%、2030年には50%、70%を目標としております。(経済産業省/次世代自動車戦略研究会発表の「次世代自動車戦略2010」)

当社のリース・メンテナンスの電気自動車契約台数は約300台ではあります。今後の研究開発では商談が増えてきております。今後の研究開発、商品開発、新規事業開発などに積極的に活用し、事業を通じて、お客様に便利と感動を提示できるような努力をいたしますので、今後とも自動車関連総合サービスのイチネンを宜しくお願ひ申し上げます。



# わが社のお得意様

## 株式会社 ノーリツ

本日は、給油カード・自動車リースでお取引いただいている㈱ノーリツ様をご紹介させていただきます。

戦後間もない1951年「お風呂は人を幸せにする」という創業の原点のもと、日本のお風呂文化を広めると共に、人々の生活水準の向上を目指し、風呂釜「能率風呂A型」を世に送り出されました。その後、半世紀以上にわたって、「お湯」をキーワードに、ガス・石油温水機器、温水暖房システム、システムバス、システムキッチン、洗面化粧台、そして、厨房機器等の独創的な製品を通じて、一人ひとりのお客様にとっての「お湯による快適生活」を提案されてまいりました。

また、ガス石油機器業界で初となる営業部門の全72拠点で環境管理の国際規格であるISO14001を認証取得されるなど「地球環境との共生」という人類共通の課題に対して取り組まれており、きれいな地球を次の世代へ継承するため、太陽光発電、太陽熱利用機器・燃料電池など、新エネルギー分野にも参入されております。

2009年には「企業の成長」と「環境推進」の両立を目指したエコファースト企業の約束として、1. 製品を通じて低炭素社会構築への取り組み 2. 事業活動を通じて低炭素社会構築への取り組み 3. 法規制を先取りした化学物質管理を強化し、環境汚染リスク低減への取り組み 4. 資源循環型社会構築への取り組み など地球温暖化防止への挑戦的な取り組みを「成長に向けた仕掛け」と位置づけられ、グループ一丸となって持続可能な低炭素社会の構築に貢献すべく力強く推進されて

- 【株式会社ノーリツ】
- ◆所在地：本社 神戸市中央区江戸町93
  - ◆代表者：代表取締役社長 國井 総一郎
  - ◆資本金：201億6,700万円  
(2010年12月末現在)
  - ◆従業員数：2,460名 (2010年12月末現在)
  - ◆取引開始：10年
  - ◆契約枚数：700枚 グループ会社含む  
(2011年2月末現在)
  - ◆契約台数：当社142台 (2011年2月末現在)



おります。

給油カードのお取引は、10年前に名古屋支店様からご採用いただき、現在はグループ会社様を含めたお取引をさせていただいております。

最後にノーリツグループ様の益々のご発展をお祈り申し上げます。

紹介者 石油営業本部 カード営業部 大阪営業課 久嶋 浩史

# ふえろ〜提携工場紹介

## 酒井自動車整備株式会社



さて、自動車業界は市場が縮小しており、経営環境も厳しいと言われている。自動車整備業においては

弊社は先代が千代田区東神田にて10年余り修行した後に独立、昭和42年に法人化、44年に現在の江東区高橋に移転して現在に至ります。

深川界隈には、江戸三大祭の深川八幡祭りが行われる富岡八幡宮や、紀伊國屋文左衛門の屋敷跡、清澄庭園などがあり、江戸情緒を味わえる場所がそこかしこにあります。深川飯やどじょう鍋、桜鍋の老舗もあり、池波正太郎の小説を読んでこの地を訪ねてくる方もいらっしゃるようです。

両国に近いこともあって相撲部屋も沢山あり、まわし姿の力士も街中で見られることも出来ます。

近所には美しいフォルムの清洲橋、松尾芭蕉が居を構えた場所の側にある萬年橋があり、テレビドラマ等のロケ地としても有名です。

この場所は、交通アクセスが非常に便利な立地で、都営新宿線、大江戸線、半蔵門線と3本の地下鉄があり、首都高速は箱崎インターチェンジの近くで、どの方面にもスムーズに行くことが出来ます。その為か、ここ数年は再開発も進み、高層マンションが増え、人の流れもだいぶ変わりました。

- 【酒井自動車整備 株式会社】
- ◆所在地：江東区高橋 6-8
  - ◆代表者：酒井英雄
  - ◆従業員数：9名
  - ◆取引開始：1990年10月
  - ◆委託台数：476台 (2011年3月末現在)

酒井自動車整備株式会社  
代表取締役 酒井 英雄

まだ売り上げを拡大する余地が残っていると考えます。弊社は新車・中古車販売、買取りは勿論、タイヤ、ナビ等の販売にも積極的に取り組んでおります。

アフターサービスにつきましては、利益率の高い輸入車の整備と、ボディコーティングに力を入れております。特にベント、BMWについては専用の診断機を導入しており、新車乗用車にはほぼ100%施工、お客様には大変ご好評を頂いております。

イチネン様とお取引も早いもので20年を超えまして、委託台数は400台を超えました。お陰様で飯金塗装の入庫台数も順調に推移しており、個人ユーザーのお客様も増えました。今後もお客様、イチネン様のご期待に添えるよう、より一層きめ細かいサービスを充実させ、お客様第一主義をモットーに、スタッフ一同全力でメンテナンスに取り組んで参ります。

よく走り、よく笑う。

走りにしっかり 揺れにしっかり  
進化したミニバン専用タイヤ

トヨティレックス  
IBW **TRANPATH IMPF**

TOYO TIRE & RUBBER CO., LTD. | <http://toyotires.jp> 国内一級車検取得済